

腰椎下リンパ節への転移および捻転を伴った精巣腫瘍の犬の1例

2007.10 動臨研合同カンファレンス要旨より

【症例】

雑種犬，雄，6歳2カ月齢，体重12.65kg

【主訴と現病歴】

3カ月前に体を触ると痛がるとの主訴で他院を受診した際に，脊椎の異常を指摘されカルプロフェンを処方されるも改善みられず。2日前から食欲の低下と嘔吐が認められ，精査および治療を希望し当院を受診。ワクチン接種未実施，フィラリア予防毎年実施。

【身体検査所見】

体重12.65kg，体温38.6℃で腹囲やや膨満。皮膚脱水6～8%，両側停留精巣（腹腔内）で，腹部触診にて疼痛著明および腹部中央に手拳大の腫瘤を触知。

【初診時臨床検査所見】

◎血液検査

CBCでは好中球数(12672/ μ l)の軽度増加と血小板(119 \times 10³/ μ l)の軽度低下を認めた。血液化学検査ではTP(7.5g/dl)，Alb(4.1g/dl)，肝酵素(AST108U/l，ALT145U/l，ALP500U/l，GGT10U/l)，TCho(328mg/dl)およびLDH(377U/l)の軽度上昇，pH(7.304)と重炭酸塩(16.2mmol/l)の軽度低下を認めた。

◎単純X線検査

腹部中央腹側に手拳大の腫瘤像およびそのやや尾方に拇指頭大の腫瘤像を認めた。また腰椎下リンパ節の腫大を疑わせる像を認めた(図1)。なお胸部では異常は認められなかった。

◎腹部超音波検査

腹部中央腹側の手拳大の腫瘤は境界明瞭でモザイクパターンの実質エコー像(図2)を示し，内部に血流は認められなかった。なお手拳大の腫瘤のやや尾方に認められた拇指頭大の腫瘤は境界明瞭で均一な実質エコー像を示し，正常構造をもつ停留精巣と思われた。

【診断・治療および経過】

以上の検査結果より腹腔内停留精巣ならびにその腫瘤化と仮診断し，手術を前提に入院とし，静脈内持続点滴，抗生物質，H₂ブロッカー，水溶性複合ビタミン剤の静脈内投与を行い，同日術前にCT検査を実施した。麻酔はミダゾラム，グリコピロレート，塩酸モルヒネの前投与に続いてプロポフォールの静脈内投与により導入し，イソフルランと酸素の吸入により麻酔を維持した。呼吸管理は塩化スキサメニウムの間欠的静脈内投与下でベンチレーターによるIPPVとした。造影3D-CT検査において手拳大の腫瘤(図3，4 白矢印，図5の黒矢印は片側の停留精巣)は周囲組織との境界明瞭で，血流の乏しい転移と思われる腰椎下リンパ節の腫大(図4 白矢印)が認められた。腹部正中切開により開腹すると，暗赤色で手拳大に腫瘤化した左側精巣起源と思われる腫瘤(図5)と正常な外観をもつ拇指頭大の右側精巣を認めた。腫瘤化した左側精巣は精巣動静脈および精管を軸に540℃捻転(半時計回り)していた(図6 矢印の部分で捻転)。これらを超音波凝固切開装置にて摘出後，さらにウズラ卵大に腫大した下腹リンパ節と内側腸骨リンパ節を認め，これらの郭清も実施した。この後腹腔内を温生食水にて十分に洗浄し，常法に従い閉腹した。病理組織学的検査では，摘出した左側精巣腫瘤および右側精巣はともに精上皮腫(セミノーマ)で，摘出した両リンパ節にはその転移が認められた(図7)。術後は術前同様の治療と鎮痛剤(塩酸モルヒネまたは塩酸ブプレノルフィン)の投与を行い，経過はおおむね良好であったため術後8日目に抗生剤を7日分処方し退院とした。退院後は元気食欲もあり，単純X線検査(胸部，腹部)および腹部超音波検査でも異常は認められなかったが，術後7カ月の腹部単純X線検査(図8)および腹部超音波検査で転移と思われる腰椎下リンパ節の腫大を認めた(1 \times 2cm \sim 2 \times 3cm，複数)。術後11カ月後には食欲がやや低下し，時折腹部および腰背部に疼痛がみられるようになったとのことであったため，カルプロフェンまたはフィロココキシブとH₂ブロッカーを処方した。術後13カ月のレントゲン検査では腰椎下リンパ節の著しい腫大が認められた(図9)。なお本症例は術後18カ月経過した現在も生存中であるが，腰椎下リンパ節はさらに腫大が進行している。

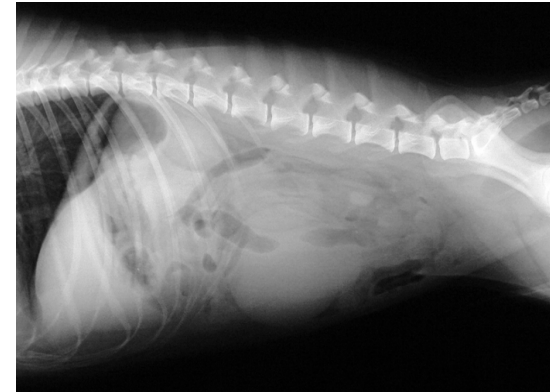


図1 腹部単純X線所見(RL像)

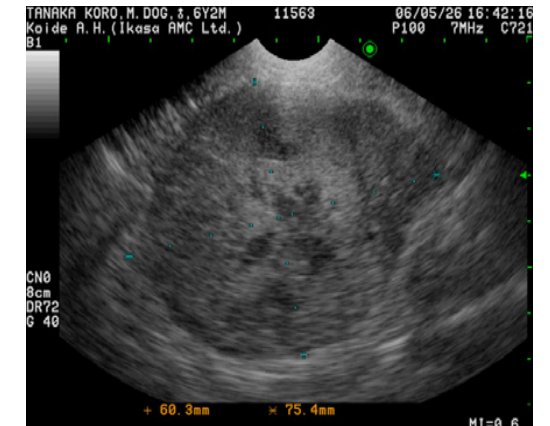


図2 腹部超音波所見(Bモード)

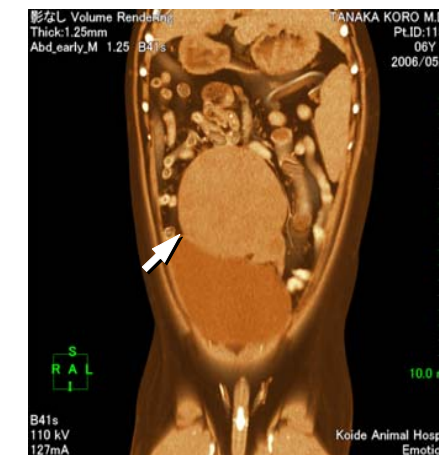


図3 腹部造影3D-CT所見(VD像)

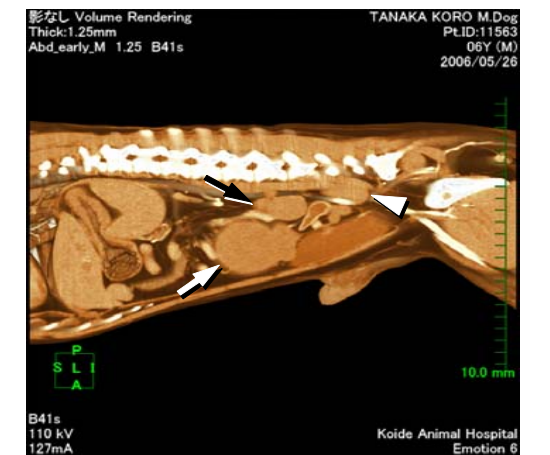


図4 腹部造影3D-CT所見(RL像)

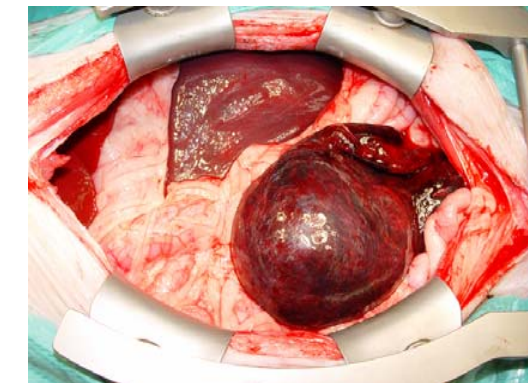


図5 術中所見①

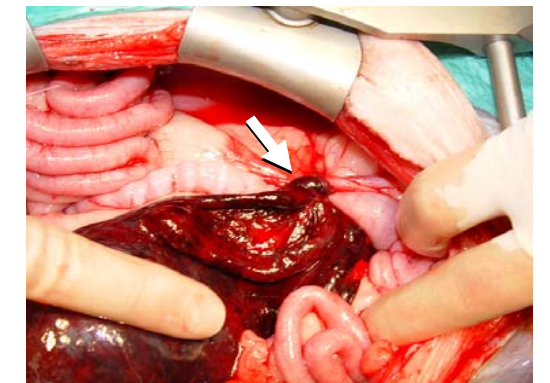


図6 術中所見②



図7 腹腔内より摘出した右側精巣(左上)，下腹リンパ節(右上)，内側腸骨リンパ節と腫瘤化した左側精巣(下)

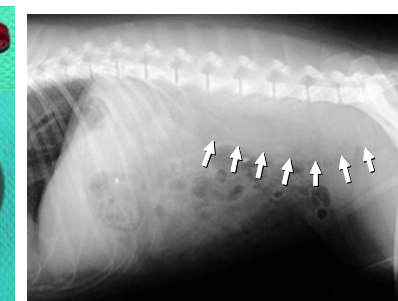


図8 腹部単純X線(術後7カ月)

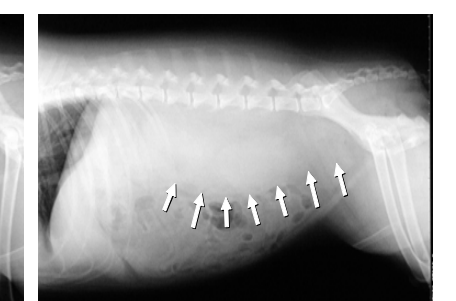


図9 腹部単純X線(術後13カ月)